



- 非正規では介護休暇がとりにくい
- 時間給なら介護で収入減



- 団塊世代と団塊ジュニア世代の介護に関する全国調査の実施
- 介護サービスの拡充
- 低所得世帯への介護保険給付の充実

介護による収入減への不安に国が寄り添います

非正規雇用では介護休暇がとりにくい職場が多く、時間給であれば介護のために労働時間を減らした分だけ収入も減るため、親の介護と本人の生活の両立が困難となります。

就職氷河期世代の多くが今、後期高齢者となった親の介護に直面していることから※¹独身の不安定就業者が親の介護と自身の生活を両立できる仕組みの整備は喫緊の課題です。

「8050」「9060」問題を含む、団塊世代(親)と団塊ジュニア(子)世代の介護に係る全国調査及び、介護サービスの拡充や低所得世帯に対する介護保険給付の充実等、国および地方自治体による支援の強化は時代の要請です。

※¹ 就職氷河期世代で介護をする者は2023年で75万人、2033年には200万人になると試算されている。